

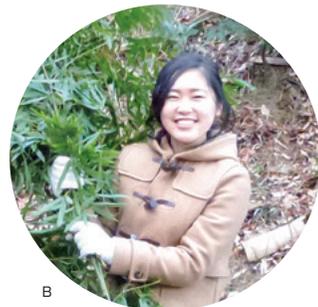


Happy Smiles! CCC

ボランティアで生まれた、見つけた、いい笑顔!



A



B



C



E



F



D



G

H

- A...学生団体「名古屋コーンもりあげ隊」
名古屋市長インタビュー
- B...SONY EMCS(株)と行う環境活動
- C...愛知なごや雪まつり
- D...学生団体「なごやであそび隊」イベント
- E...御園通り500円市イベント
- F...長久手市市内一斉防災訓練
- G...CCC×JDRトヨタ
高齢者向けクリスマスイベント
- H...CCC学生スタッフ

編集後記

コラボ通信45号いかがでしたか?ご意見、ご感想お待ちしております。

今回も学生編集チームが先輩のインタビューやボランティア・イベントの写真撮影をがんばってくれました。編集チームのメンバーも引き続き募集しています。素敵な笑顔や真剣な表情に出会い、コラボ通信を通じて発信してみませんか?興味のある人はCCCスタッフまでお声がけください。

学生編集チーム

- 加藤真衣(メディアプロデュース学部4年)
- 西川未菜(メディアプロデュース学部4年)
- 後藤 梓(メディアプロデュース学部3年)
- 宇佐美舞(福祉貢献学科2年)
- 倉野愛弓(福祉貢献学科2年)

発行: 愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター

●長久手キャンパス(11号棟1階)
〒480-1197 愛知県長久手市片平二丁目9 (0561)62-4111(代)

●星が丘キャンパス(5号館1階)
〒464-8671 名古屋市千種区桜が丘23 (052)781-1151(代)

Eメール asccc@asu.aasa.ac.jp
HP <http://www.aasa.ac.jp/institution/ccc/index.html>
利用時間 平日9:00~18:30(授業日以外9:00~17:00)

コラボ通信 vol.45



【写真】
介助犬を学ぼう in 長久手市立東小学校
(主催:CCC学生団体「チームわんわん」)
撮影:倉野愛弓(福祉貢献学科2年)



学生時代にボランティアや社会貢献活動、地域に飛び出して動いた経験って、本当に卒業してから役に立ってるの？
そんな素朴な疑問を先輩にぶつける、卒業生インタビュー。

今回インタビューに協力してくれたのは、文化創造学部卒の槌尾加奈子さんです。

プロフィール
槌尾加奈子(つちおかなこ)
文化創造学部2010年卒
総合商社勤務。

今回インタビューに協力してくれたのは、文化創造学部卒業の槌尾加奈子さんです。槌尾さんは、在学中に「エコのつぼみ」という環境の団体を立ち上げました。「エコのつぼみ」では、企業と協力しながらイベントの企画・運営をしたり、小学校へ出向いて環境学習を行うなどの活動をしていました。「エコのつぼみ」は槌尾さんが卒業後も存続し活動の幅も広がっています。2015年12月に星が丘キャンパスで行われた環境団体の発表会に、「エコのつぼみ」の現役生が参加し、槌尾さんもOGとして駆けつけました。

今回のインタビューは、星が丘キャンパスのCCCで行いました。当時の槌尾さんをよく知るスタッフの秋田さんと、写真を見ながら話し、学生時代を懐かしむ槌尾さんの姿が印象的でした。今回のインタビューでは、学生団体での活動、学生時代の活動経験が仕事にどう活かされているか、現在の学生を見てどのように感じたのか、様々なお話を聞かせてもらいました。



Q CCCを訪れたきっかけは何ですか？

A 元々、友達と大学祭実行委員会に所属していましたが、2年生の時に、その友達がCCCに行くというので一緒に訪れました。CCCでの活動は大学祭実行委員会と違い、やり方が決まっておらず自分たちでやりたいことができるのが魅力的でした。

Q 「エコのつぼみ」ではどのような活動をされていますか？

A 中部電力様の方と一緒にいろいろなイベントの企画・運営をしました。『身近なエコ』として企画したマイ箸づくりのワークショップは、イベントで出店する際に興味を持ってもらいやすいと思い企画しました。また、

小学校に出向いて自分たちが学習したことを発信する環境教育も行っていました。その他にも大学祭では模造紙や段ボールなどをを用いた手作りの森を展示したり、様々な活動を行いました。

Q 活動中で大変だったことは何ですか？

A 企業からのオファーに対して、スケジュールを調整しながら実現することは案外大変でした。会議と準備を同時進行で行っていました。

その中で、私は副代表としてみんなのモチベーションが上がるように意識しながらメンバー全員に役割と仕事を振ってみんなが動くようにしたり、自分たちのやりたいことと目的がずれていないか方向性の確認などのサポート役に徹していました。その経験からサポートすることを仕事にしたいと考えるようになり、現在の仕事に就いています。

Q これまでの活動で現在のお仕事に活かされていることはありますか？

A 社会人の仕事のやり方のベースになっていると思います。プロジェクトの進め方、動かし方については、学生時代のイベント企画をやっていくうえで身に付きました。また、当日に急遽人前で活動発表をするということも結構多く、その経験のおかげで発表の事前準備や話のまとめ方に自信が付き、今の仕事でも役立つと思います。

Q 12月に本学で行われた環境団体の発表会に参加されたということですが、今の学生の活動をどう思いましたか？

A 私たちの時は比較的自分たちが学習したことを伝える活動をしていましたが、今の学生さんたちは『実際に体験してみる』ということに重点を置いて活動しているように感じま

た。そのほうが時間も有効に使えますし、自分の目で感じて感じたことをその場で伝えられるというところは良いことだと思います。

Q 最後に学生たちに向けてメッセージをお願いします。

A ボランティアは自主性が大切なので、やり方に決まりがないです。だから、自由に活動でき、それはボランティア特有のものだと思います。何も考えずに飛び込んでみてください。私も「エコのつぼみ」に参加したときはとにかくやってみようと思って活動を始めました。やってみると案外面白かったりするものです。あとは、自分のやりたいことを口に出すのも大事です。誰かが聞いてくれていて、情報をくれたり誘ってくれたりするので可能性が広がりますよ。時間を大切に、学生の皆さんには今しかできないことをやってほしいです。



前号(vol.44)と違い、CCCでインタビューを行ったので、槌尾さんも昔の活動を懐かしみながらお話ししてくれました。インタビューの中で槌尾さんは「ボランティアは自主性が大切なので、自由に活動ができる」ということを伝えてくれましたが、本当にその通りだと思いました。強制されて行うものではなく、自分がやりたいから行動する、それを実現できるのがボランティアのいいところだと感じました。

聞き手/加藤真衣
メディアプロデュース学部4年

ボランティアレポート!

介助犬をもっと知ってほしい!

長久手市協働まちづくり事業活動
「教えてシンシア! 介助犬を学ぼう♪」
～チームわんわん～



2/19 Fri

in 長久手市立東小学校

CCC学生団体「チームわんわん」が、介助犬の認知度向上のため長久手市立東小学校にて出前授業を行いました。介助犬の説明や学生手作りのカルタ体験をはじめ、実際に介助犬を連れて行き、デモンストレーションも実施しました。約50人の子どもたちに、楽しみながら介助犬のことを知ってもらえる機会となりました。

学生コメント

「チームわんわん」が日本介助犬協会さんと一緒に東小学校で授業をさせてもらうのは今年で3年目になります。子どもたちは介助犬のデモンストレーションを真剣に見てくれ、また、質問の鋭さにも驚かされました。今年も私たちの手作り介助犬カルタで楽しそうに遊んでくれ、とても嬉しかったです。こうして子どもたちの介助犬の認知の輪が広がっていくといいなと思います。

(人間情報学科4年 今田有紀)



雪と子どもと触れ合って雪まつりを盛り上げました!

愛知なごや雪まつり
ボランティア



2/21 Sun

in 愛・地球博記念公園(モリコロパーク)

愛知なごや雪まつりは、愛・地球博記念公園(モリコロパーク)で毎年開催される名古屋エリア最大級の雪のイベントです。ボランティアスタッフの取りまとめを、CCC学生団体「Volunteer Lab」が担いました。当日は来場した子どもたちが安全に楽しめるように、雪遊びコーナーなどの運営補助をしました。

学生コメント

雪まつりボランティアでは、子どもたちの楽しんでいる笑顔を間近で見ることができ、とても幸せな気持ちになりました。当日は、子どもたちと一緒にフワフワ滑り台を滑って遊んだり、馬の乗り物に乗って散歩をしてもらったりしました。たくさんの来場者の方が来てくださり、大盛況に終わりよかったです。来場者だけでなくボランティアスタッフも楽しめるイベントだったので来年もぜひ参加してみたいと思います。

(福祉貢献学科2年 倉野愛弓)



春～夏の
オススメ
ボランティア

【子ども】

○夏休みこども日本語教室

【環境】

○表浜BLUE WALK
○柵アンソー主催 衣料回収活動

【福祉】

○デイサービス(高齢者施設)外出支援

【その他】

○ジョギングフェスティバル

○東谷山フルーツパーク

クッキングサポート

【イベントも充実!】

○名東の日・高針村

ふるさとまつり

○介助犬フェスタ

○堀川フラワーフェスティバル

☆詳細は月2回発行される「ボランティア情報」をチェック!

ヒト×ヒト つながりリレー

ボランティアの面白さ
=新しい人との出会い!
いろんな人と出会える楽しさで
ボランティアにはまっていく学生も
多くいます。
つながりリレーでは「ボランティアで
こんな人につながったよー!」を紹介します。

Pick Up! “学生団体「アミーゴ」”

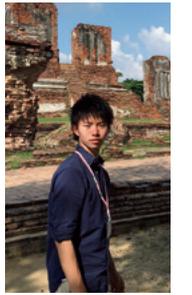
愛知県は、日本語指導が必要な外国籍児童・生徒数が、全国で最も多い県です。子どもたちの中には、家庭では母語を使うため、学校の勉強に苦労する子や、ダブルリミテッド(母国語、日本語とも未発達な状態)となる子どもも少なくありません。「アミーゴ」は現在、子ども応援団として主に西尾市で、子どもと一緒に本を読んだり、日本の学校について教えるなどの就学前指導を行なっています。

私は教育学科3年の仲垣祐輔くん(がっきー)を紹介します。がっきーは私たちアミーゴが主催する外国人児童のための多読活動に参加してくれました。彼は、国際交流にとても興味があり、自分から進んでチャレンジしていきます。活動中も積極的に取り組む姿はとても格好よく、私自身感心させられました。そんな彼とも、今年から同じゼミ生として、様々な活動を共にしていきます。がっきーの積極的な姿勢をさらに飛躍させて、頑張ってもらいたい。がっきーの成長が楽しみです!



三木麻由香(みきまゆか)さん
文学部教育学科4年

僕は同じ学科の幅 琢真(はばたく)くんを紹介します。はばたくとは風の自然学校というボランティア団体のキャンプで仲良くなりました。結構面倒くさがり屋の彼ですが、子どもの前に立つと一変。誰よりも子ども目線になって一緒に楽しみ、そして子どもの意見を尊重します。また、海外ボランティアにも1人で参加する彼の話を聞いて、いつも刺激を受けることばかりです。彼のおかげで自分の価値観を広げることができました!出会いに感謝!!



次号は…
はばたくさんからの
つながりリレー!

仲垣祐輔(がっきー)さん 文学部教育学科3年



幅 琢真(はばたく)さん
文学部教育学科3年

CCC運営委員の先生に聞く「学生へのイチオシ!」

第2回はCCCの金治宏先生から、学生のみなさんに伝えたい書籍をご紹介します。

CCC イチオシ!



勉強するのは何のため?
僕らの「答え」のつくり方
苦野一徳(とまのいっとく)著
日本評論社 2013年 1,512円

私たちは、自分の限られた情報・経験から、それを一般化して物事を考えてしまいがちです。たとえば「少年犯罪の数が増加している……」とか。この傾向を筆者の苦野さんは「一般化のワナ」と呼んで注意を促します。

この「一般化のワナ」に僕もひっかかったことがあります。昨年担当したCCC開設科目「コミュニティ・サービスラーニング多文化共生」のなかで、「認知症になった人が安心して暮らすことができるまちづくり」に学生たちと取り組んだのですが、僕自身認知症になると「何もできなくなる、わからなくなる」とずっと思い込んでいました。学生たちも同じイメージを持っていたようです。けれども、認知症の本人に授業で話してもらったり、一緒にパーベキューやソフトボールを楽しんだりするなかで、「できることもたくさんある」ということに気がつきました。正直、びっくりしました。苦野さんは、「一般化のワナ」を克服する手段として「これは本当に誰もが納得できるような考えなのだろうか?」と常に自分に問う態度が必要と言います。この態度は、地域で多様な人たちと協働するなかで身につくものなのかもしれません。

大学生が考える 私たちの未来予想図

認知症について自分の感じた“驚き”を、学生たちがリーフレット「大学生が考える私たちの未来予想図」にまとめました。

